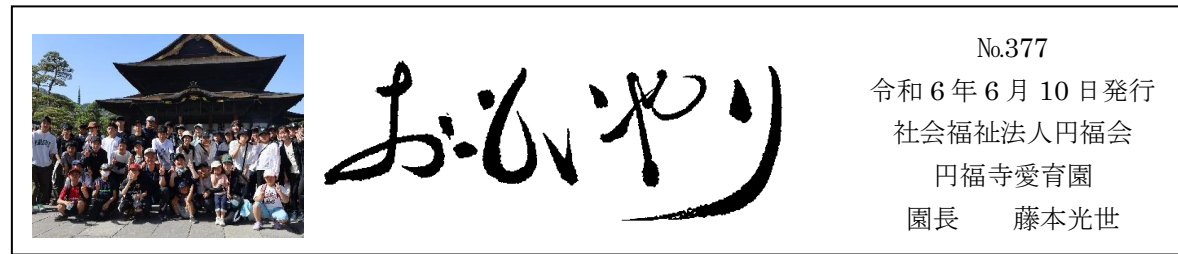


今年も善光寺への 21 km、みんなで完歩しました。



パーマネンシー保障

園長 藤本光世

令和2年に策定された長野県社会的養育推進計画を見直し、令和11年までの後期計画を策定するという。その理由の主は、里親等委託の推進状況について

- 里親等委託率の目標未達成
乳幼児委託率の目標値 75%、学童期以降の目標値 50%に対して、令和3年度実績は 23.5%
- 特別養子縁組の取り組みが不十分
年間目標：1000人以上のところを、令和4年度実績 580件
だからと言う。

関係者が努力しているのにこんなにも目標未達成であるのは、そもそも目標値に無理があるからではないか。こども家庭庁が発出した「計画策定要領」を読むと、数値目標に大幅に達していないことを理由に、強引に進めようとする意図が見えて残念である。例えば「実親による里親か施設等かの選択を前提としない同意書の活用等を図る」とか、「特別養子縁組においては、他の自治体や民間あっせん機関等との連携も重要である」と。私は「同意書」なるものを見たことはないが、実親の思いを無視するような同意書まで作成して、社会的養育先を決めて良いのだろうか。また、特別養子縁組を進める「民間あっせん機関」が存在して、それを使ってまで数値目標を果たそうとするのはどうなのだろうか。子育ては本来善意と犠牲の上に成り立つものである。あっせん機関と言うと、養育里親のあっせんを職業としているのではないか。そうであれば「あっせん」が成立すると、国はお金を支払うのだから。お金が動くとなると、養育に適さない里親や自己中心的な欲求で里子が欲しいという里親でも、里親として紹介されるのではないか。なぜ、ここまでして里親を探さなければならないのだろうか。その結果取り返しがつかない生涯になるのは、子どもなのである。これがこどもまんなかプランの実態なのである。

そもそも、社会的養育の仕事はとっても難しいのである。そんなことはちょっと考えればわかることで、当たり前である。それは、生まれてから高校卒業まで措置児童と一緒に集団生活で育った私が、一番よく知っている。説明会でこのことを話してから、新たな策定の目玉である、「里親委託（家庭的養育推進）」と「パーマネンシー保障」とどちらを優先するのですかと質問

してみた。新たな策定要領に「家庭養育優先原則とパーマネンシー保障の理念に基づくケースマネジメントの徹底」とあったからである。両者はそもそも異なった概念なのである。

パーマネンシー保障とはどんな概念なのだろうか。この言葉は今回初めて登場した。児童養護施設関係者や里親等が分からないし知らないから教えてあげようとしたのか、県はわざわざ「パーマネンシー保障について」という1ページの参考資料を作った。それによると、「パーマネンシー概念は、アメリカにおいて1970年代に理論化され、1980年代に連邦法により制度化された」と権威づけている。どうして、国は西洋（アメリカ）の養育を押し付けて来るのだろうか。西洋育児文化を押し付けられて日本人がおかしくなっていくことを、熊本市社会福祉協議会会長の潮谷愛一氏は、第22回石井十次セミナーのシンポジウムで話している。アメリカは子育てが下手で、1969年に彼が留学した時「アメリカには（里親が主で）子どもの施設はありませんでした。子どもの施設はないんだけど、あるんです。それは問題児の施設は残っています。どこにでもいっぱいあります。特に中学生、高校生の問題児、大変なんです。毎日事件が起きます。言っても言っても直らない。みんなかっとなってイライラする。頭にくる。暴力暴言、こういう子どもたちです。」そして、アメリカの虐待件数は68万件もあるのである。「というのは、いかにアメリカが子育てが下手かということなんです。」と話している。だから、「理論化」し「法律で権威づけた」のだから。子どもの養育は「理論」や「法律」や「権威」ではできない。

こども・家庭課の担当者は「家庭養育優先」は「今」であり、「パーマネンシー保障」は「未来」のことで時間軸が異なるので、両立するというような返答をした。これはまったく間違っているのである。今の「養育」の結果が「パーマネンシー保障」につながるのである。

父は、円福寺愛育園で先進的な取り組みをした。例えばホストファミリーは、昭和30年代に「愛の親類」として実践し、「農繁休業等には宿泊でお世話になった子どもたちが、毎年正月には三〜四組の若い夫婦となって子どもを連れて新年のあいさつに来てくれる。」と愛の親類をされた高野利康氏が創立75周年記念誌の46ページに書いている。愛の親類がパーマネンシー保障となったのだ。このほかに「ふるさとの会」（卒園した子どもたちの会）で交流を続けた。名古屋で板金塗装業の技術を身に着けた人が、長野で会社を創業するときに支援した。これはパーマネンシー保障である。母は亡くなってから11年たった創立75周年記念事業に、お世話になった皆さんが原稿を寄せ、式典に来て顕彰している。これは究極のパーマネンシー保障ではないか。

日本には、日本の文化を背景とした子育てがあり、社会的養育ではそれぞれの施設が培った養育がある。それらを大切にしたいと切に願う。

最後に、パーマネンシー保障の「心理的親との永続的な関係」は養育親の養育結果による永続的な責任が伴い、覚悟が伴うことを指摘しておく。

善光寺ウォーキング

主任指導員 T.M

2年前から始めた園内行事「21km善光寺ウォーキング」も今年で3回目を迎えました。愛育園から松代方面に迂回して、ホワイトリンク、ビッグハットと経由して、最後善光寺さんをゴールに、子供職員が全員で歩きます。

年度の最初に行うこの行事は、ウォーキングを通して子ども達と先生方が会話や大変な思いを通して関係性を深めて欲しいという願いがあります。「ちょっと大変な事で一人ではやりたくないけど、みんなとならやってみよう」そういう気持ちで臨むのが善光寺ウォーキングです。

3回目ともなると中高生の子たちは、慣れてる事に加えて、体力もあるので終始余裕を持って会話や景色を楽しみながら歩いている様子でした。小学生は去年からの成長が著しくて、去年は何とか励ましながらゴールした子も、今年は先頭集団に交じってグングン歩いてとても遅か

ったです。しかし、なんと言っても今年のMVPは4歳のK君です。

K君は一年前から愛育園で生活している子なのですが、去年はこのウォーキングに参加しませんでした。もちろん体力的な判断もありましたが、K君は何にでも消極的で緊張しやすく、些細な事でも怖がって「やだ」「できない」と体をよじって物凄い拒

否を示す子で、とてもじゃないけどウォーキングなんて無理でした。しかし、この一年で沢山の経験やまごころホームの先生方の愛情を受ける中で、甘え方や褒められる喜びを覚え、どんどん積極性が出てきました。顔つきも柔らかくなって、どちらかと言うと人にいぢわるをしちゃう事が多かったのがずいぶん社交的な様子まで見られるようになりました。

「21kmのウォーキングは無理でも、きっと一生懸命歩くぞ」と思わせてくれる程成長を感じられたK君、なんと最後までハツラツと歩き切ってしまいました。当日は天気良すぎて日差しも相当きつかったのですが、ゴールした時の真っ赤に日焼けしたほっぺと晴れ晴れとした表情には心底胸打たれました。4歳の小さい体で本当にすごいと思います。きっとK君はどれくらいすごい事をやったかなんて自覚は無いと思いますが、21kmも歩けた事は、きっと心にしっかり刻まれたはずです。それが自信になって、日々の成長に繋がっていくと思います。



愛育園の生活は、日々の生活で地力をつけ、それを行事によって自信に変え、その繰り返しのよって、やがて自立の力に結びついていくという事をK君の姿をみて改めて思いました。そんな愛育園の養育に誇りを持って、これからは頑張っていきたいと思いません。

年度のスタートを切る行事で、そんな気持ちにさせてくれた「善光寺ウォーキング」は子ども達にとっても、私たち職員にとっても大々大成功でした。



善光寺ウォーキング

あおぞらホーム Y・S

ゴールデンウィークの初日5月3日に毎年恒例の善光寺ウォーキング行事を開催しました。愛育園から善光寺までの道のりをみんなで歩く、という行事です。ペースは各々ですが毎年みんなリタイヤせずにゴールまで歩き切っています、今年も全員歩き切ることが出来ました。昨年は大変そうに歩いていた小学校低学年の子も今年はそんな様子もなくゴールまで歩くことが出来て成長を感じることが出来ました。ゴールしてからはそれぞれ買い物を楽しみました、今年は買いたいものに大きな制限もなくほぼ自由に欲しいものをそれぞれ選んで購入しみんな嬉しそうにしている様子がありました。

大きなケガや事故もなくみんな無事に帰ってくる事が出来たことも良かったと思います。

でも、毎年年度の最後に一年間の振り返りとして行事のランキングを投票によって決めるのですが善光寺ウォーキングはいつも下位になってしまい少し悔しい感じもあります。何か少し工夫を凝らして順位を上げられればいいな、と改めて思いまし



た。
一年で最初の行事を無事に終えることが出来た為、今後の行事にとってもいいスタートが切れたと思います。

善光寺ウォーキング

まごころホーム N・R

今年度、初めての行事となる善光寺ウォーキングに参加しました。私にとって初めての行事だったため、始まる前から「ついて行けるのか」「どのくらい大変なのか」と、不安と緊張でいっぱいでした。経験のある子どもから話を聞いて、気持ちの面でも準備していたつもりでしたが、想像を超えるほどの大変さでした。

私は、幼児と一緒に善光寺を目指して歩きました。ただ歩くというだけでなく、交通状況や子どもの様子を見ながら歩くことも大切になってくるため、より大変だと感じました。ですが、大変だと思うことだけではなく、子どもの成長にも気づくことができました。職員が想像していた距離よりも長く歩いていて、体力があるなど感じたし、疲れていても少しでも長く歩こうという姿勢が見られました。そのような姿を見て自分も頑張ろうと思えたと、お手本にならなきゃだめだと、子どもから学ぶこともありました。

私たちは、残念ながら善光寺まで歩くことはできず現地でも合流という形になりましたが、普段の生活ではなかなか見られない子どもの新たな一面や表情などを見ることができ、この行事に参加できて良かったです。

善光寺ウォーキング

あおぞらホーム S・K

5月3日に善光寺ウォーキングを行いました。私はこれまで約21キロという長い距離を歩いたことがなかったため、子どもたちより先に自分がダウンしてしまうのではないかと心配していました。また、今年度初めての大きな行事ということもあり、不安が大きかったです。しかし、実際に歩いてみると子どもたちとの会話が楽しく、景色を楽しみながら無事に善光寺まで歩き切



ることができました。さらに、子どもたちも疲れた様子を見せずに道中のゴミ拾いを頑張っており、その姿に元気をもらいました。

善光寺に着いた後に食べ歩きやお土産を買う時間がありました。そこでソフトクリームを美味しく食べている子どもたちの姿が印象に残っています。

この行事を通して子どもたちと長い時間会話ができるとても良い機会となり、わずかながら関係性も深まったように感じます。一方で、反省点もあるため、次回の行事に活かしていきたいと思っています。

善光寺ウォーキング あおぞら児童感想

善光寺ウォーキングでは、約21kmの道のりを、ゴミ拾いをしながら歩きました。いくつかの休憩所はありましたが、足を痛めたのでなんとか歩き切りました。途中からは歩くのが辛かったです。序盤でゴミ拾いをしつつペースが早い先頭集団に追いつこうとしました。その為に、自然と歩く速度も速くなり、結果として足を痛めました。歩き切ることが出来ましたが、悔しい思いで胸がいっぱいです。

善光寺は花回廊が行われており、相も変わらず、人で溢れていました。人の多さには、流石になれましたが、集団で人混みを歩くのは慣れません。今回のお目当ては、ゆきおというキャラクターのキーホルダーでした。そのシリーズで、可愛い黒猫のものがあつたのですぐに購入しました。とても嬉しかったです。これまでの善光寺で、食べ物をかうことはあまり無かったです。しかし、今回は食べる決めていたので、ぼたぼた焼きとメンチカツを買いました。個人的には、ぼたぼた焼きがとてもおいしかったので、今度来る機会があれば食べたいと思いました。メンチカツもサクジュワで美味しかったです。

来年は足を21km歩いたぐらいじゃびくともしないぐらいに鍛えて、余裕をもって善光寺ウォーキングを歩き切りたいです。

(高2 S・Nくん)

毎年の行事、善光寺ウォーキングをやりました。今年も長い道のりを歩けるか楽しみでした。また歩く途中でも、ゴミの回収SDGsにも貢献しました。長野市を少しでもきれいに出来たので良かったです。それなどをやりながら、善光寺まで歩きました。歩く中でもすごかったのが、普段あまり見られない景色です。自然がとてもきれいで善光寺につくまでがあつというまででした。歩いている中でこんなにも素晴らしい景色が見られて良かったです。善光寺に行くまでが楽しかったことの1つです。2つ目は、善光寺の買い物です。疲れてはいますがとても楽しい時間を過ごせました。

こんなにも楽しく出来たのは、園長先生や職員の先生方のおかげです。日ごろから感謝しなが

ら、生活していきたいと思いました。

(中3 F・Kくん)

ぼくは、善光寺ウォーキングが初めてでした。最初は、21kmは余裕だと思っていたけど最後になつたらめちゃくちゃ疲れたなと思いました。途中でリタイアしようかなと思ったけど最後まで歩けたのでうれしかったです。善光寺についたらいろいろなお土産やいろいろな所を見れたのでうれしかったです。僕が一番うれしかったことは大峰寺でアイスを食べたことと卒園生のHくんと一緒に歩けたのでうれしかったです。

来年も行けるように日々の生活を落ちついて過ごせるように頑張りたいです。まだ行事もあるから行けるように頑張りたいです。

(中2 K・Nくん)

善光寺ウォーキング まごころ児童感想

5月3日に今年度初めての大きな行事善光寺ウォーキングがありました。私が思い出に残っていることは二つあります。

一つ目は、歩いている最中にたくさんの会話が出来たことです。最近、休日も平日もアルバイトであまり園にいたことがなかったので、歩きながらアイドルの話をしたり、ドラマの話をしたりできてとても楽しかったです。また、今年後半からH君(小3)と一緒に歩きました。去年はほぼ始めのほうから一緒に歩いていたけれど、今年は学年も上がり、途中まではあおぞらの小学生と歩いていたので、1年でこんなに成長するんだなと思いました。また、K君(年中)は、善光寺まで歩き切れるとは思ってなかったので、完歩できてすごいなと思いました。

二つ目は、アルバイトのおかげなのか足が全く痛くならなかったことです。去年までだったら、お昼休憩のときには痛くなっていたのに、今年は全く痛くありませんでした。また、次の日筋肉痛にもなりませんでした。

今年度一つ目の行事を無事成功で終わって良かったです。今年は、いよいよ最後の年なので、受験勉強やアルバイトを両立して頑張っていきたいです。また、行事も最高学年として盛り上げていき、たくさんの思い出を作りたいです！

(高3 Y・Sさん)

5月3日に善光寺にウォーキングに行きました。善光寺ウォーキングでは園から善光寺まで21.2kmという長い距離を歩きました。第一休憩所は、桜つづみ公園で、5.5kmでそこまでは全然疲れませんでした。そこから、次の休憩所はT先生のお寺で、ここではアイスを食べました。ここまでもあまり疲れてはいませんでした。その次の休憩所はホワイトリングで昼ご飯を食



べました。調理の先生が作ってくれたお弁当の中にはおにぎりが2つとハンバーグが1つ、ブロッコリーとポテトサラダとトマトといちごが入っていました。とてもおいしくておかわりで昆布のおにぎりも食べました。全員食べ終わったら次は歩道橋を渡って歩きました。ここでゴミを集めていた袋を変えてもらいました。ばんぱんだった袋を持って行ってもらい新しい袋にしてもらいました。その次の休憩所はビックハットで、ここでは

ゼリーを食べました。そこからはいつもと違うルートに行くことになりました。そしてやっと善光寺に着きました。そこでお参りをし全員で写真を撮った後買い物をしました。スタバでメロンフラペチーノを食べました。写真も撮ってもらいました。たくさん買い物ができて楽しかったです。今回はおみやげが買えなかったので来年は買いたいです。

(小5 K・Rさん)

GW行事 あおぞらホーム

あおぞらホーム M・N

あおぞらホームではこのGWに、映画を観に行ったり川へ遊びに行ったりしました。コナンの映画はみんな大好きで、とても楽しみにしており、「このキャラクターがこうだったよね、次回作も気になる！」と園に戻ってからもコナンのアニメを見て余韻を楽しんでいました。次の日には川遊びに行きました。天気も良く、子どもたちもたくさん体を動かして気持ちよさそうでした。

その他にもGWは善光寺ウォーキングがあり天気にも恵まれ外で体を動かすことが多い休みだったので子どもたちも少し日に焼けていました。

新年度が始まり環境が変わった子もいたので、このGWで心も体もリフレッシュすることができたのではないかと思います。

GW行事

まごころホーム M・H

新年度から1か月が経ち、緊張や不安を抱えていた子どもたちは、このゴールデンウィークにつかの間の休息を取ることができました。

まごころホームでは、みんなで映画を観に行きました。子どもたちの興味があり、観たがって

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

たアニメ映画だったので、とても嬉しそうでした。ポップコーンやチュロス、ジュースをたくさん飲んだり食べたりしながら、楽しみました。大きい画面で見る映画は大迫力だったと思います。

みんなで行けて、思い出を作れて良かったなと思います。

母の日の会

あおぞらホーム Y・S

5月12日に愛育園の女性の先生方へ向けた母の日の会が開催されました。

毎年自分が主となって準備している為今年も自分が担当しました。プレゼントの制作や準備には時間もかかる為、毎回ギリギリになって慌ててしまうことが多く、今年は数か月前からどんなものを作ればいいのか、と思いを巡らせていました。内容としては天気によって瓶の中の薬品の結晶の形が変わる「ストームグラス」とドライフラワーの入った「フラワーキャンドル」みんなからの「メッセージカード」「カーネーション」で決めました。この週は「中学校との懇談会」「ホーム食」「母の日の会」と自分が担当する活動が重なっていた為出来るだけスムーズに準備をしなければ、と思いついていました。制作に関しても早い段階から少しずつ取り掛かりストレスや焦りもなく子どもたちの協力もあり母の日の会を無事に終えることが出来たと思います。積極的に制作に携わってくれる子どもも多く夜の時間など子どもたちと関わる、という面ではとてもいい時間になったと思います。



女性の先生方、男性職員では気が付けないきめ細やかさでいつも子どもたちに関わっていただきありがとうございます。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム S・S

新学期が始まって2カ月が経ちました。新しい環境に心配や不安な子どもも多くいましたが、以前よりもみんな生活に慣れてきているように感じます。

気温もだいぶ高くなってきたこともあり、毎週土日になると川での遊びを始めています。今までは川という泳げる所を探していましたが、今では釣りに興味を持った子どもが多く、釣れる川や池を探し、みんなで釣りをしています。釣りと言うと、今まではあまり釣れず、仕掛けなどで捕

(令和6年6月10日発行 月刊「円福」525号付録)

獲ることが多かったですが、以前にもまして釣り上手な子が増え、イワナをたくさん釣ったり、池でブラックバスを釣る子まで現れるようになりました。特にR君は、今までフナやコイに挑戦し力をつけていき、そして見事ブラックバスを釣ることができ、満面の笑みを浮かべていました。

小学生はF先生が計画して、化石採集を行いました。長野で化石が取れると全く知らなかったですが、F先生は子どもの頃、よく化石採集をしていたとのことで、近場で化石が取れるところを見つけてもらい行ってきました。私は同行していませんが、「～万年前の化石だよ」と子どもたちが嬉しそうに見せてくれました。今までは思いっきり公園や川遊びをすることが多かったの、子どもたちにとっては貴重な経験になったかなと思います。

日々楽しく過ごすためにも、日中外に出て気持ちいい時間は、外で思いっきり発散できるよう出かけていきたいと思いますが、この1学期大きな怪我もなく無事過ごせるよう、よく子どもたちを見ていきたいと思っています。



まごころホームだより

まごころホーム T・S

GWも明け、先日中高生は中間テストがありました。高校や中学に入学した子が3人いますが、それぞれ初めてのテストになるのでテスト勉強も考えながら取り組んでいました。慣れない授業もある中でみんなこつこつと頑張っており、時折「教えてほしい」と言いに来る子もいて、偉いなあと思いました。結果もそれぞれでしたが、また期末に向けて気を抜かずに頑張ってもらえたらと思います。また、小学校は運動会がありました。まごころホームには2人の小学生がいましたが、短距離走やダンス、騎馬戦など一生懸命やっていました。普段ホームで練習頑張っていることを聞いていたので、実際にその姿を見ることができて良かったです。園とはまた違う緊張した表情や友人と関わる姿も新鮮でした。新学期から2カ月経ち、みんな毎日元気に登校できています。これからまた園でも行事が続いていくので、協力して取り組んでいきたいです。

調理室だより

栄養士兼調理員 K・H



新緑の5月。善光寺ウォーキングではほとんどの子ども達が善光寺まで歩ききることができてすごいな～と思いました。また、これから本格的な暑さになっていく季節になっていくので食中毒には気を付け、暑さに負けない食事作りをしていきたいと思います。

～5月特別メニュー～

3日 善光寺ウォーキング おにぎり2種、ハンバーグ、卵焼き、ポテトサラダ、たこさんウインナー、ブロッコリー、ミニトマト、いちご

6日 創立記念メニュー 手巻きずし、ほうれん草のピーナッツ和え、茶碗蒸し

園長先生より紅白大福

12日 母の日メニュー ビーフシチューオムライス、サラダ、フルーツの盛り合わせ

15日 よもぎ団子

～5月誕生日メニュー～

14日 醤油ラーメン、しゅうまい、カミカミサラダ、ジュース

30日 ブルダック麺、ヤンニョムチキン、チョコレギサラダ、メロンシェイク



おもいやり6月号 今月も、温かいおもいやりをありがとうございます。

【おもいやり基金】

鈴木良典様、鳥羽栄三様、古澤望様、新井千代子様、小林季雄様、立花幹也様、宇田津一郎様、大川和宏様、小柳昭喜様、岩本あき子様、

【品物】

(株)信州ハム様 ハム・ベーコン・ソーセージ等たくさん、匿名様 バームクーヘン 10箱
BEN Farm 高見澤勉様 レタス 4箱、匿名様 ギガンチューム 20本、
(株)丸八真綿様 敷布団 17枚・毛布 10枚、匿名様 長期保存クッキー2箱、

